平成26年度全国保健師長会 指定都市·政令市·中核市·特別区部会活動報告

ソーシャルキャピタルの醸成と人材育成

平成27年3月

全国保健師長会

指定都市•政令市•中核市•特別区部会

【目次】

- I 目的
- Ⅱ 背景
- Ⅲ 調査方法
- IV 調査期間
- V 調査対象及び活動の特徴
- VI 新座市の調査結果
- Ⅲ 浜松市の調査結果
- Ⅲ まとめ
- Ⅸ 考察
- X おわりに

関係資料編

I 目的

当部会では、平成 24 年度よりソーシャルキャピタルと協働した保健活動の調査を行い地域づくりに果たす保健師の役割を明らかにしてきた。

今年度はこれまでの調査結果を踏まえ、先駆的な活動を展開する自治体及び NPO 法人のヒヤリング調査を行い、ソーシャルキャピタルの醸成や協働に必要な 要因を人材育成の視点から明らかにし、今後の保健師活動に資することを目的とした。

Ⅱ背景

地域の主体的な健康づくりや健康危機管理において、ソーシャルキャピタルの活用が有効であることは、これまでの報告等から明らかにされている。平成 25 年 4 月に厚生労働省健康局長通知として出された「地域における保健師の保健活動について」の改正では、ソーシャルキャピタルを活用した自助及び共助の支援を推進していくことが盛り込まれ、これからの保健師にはソーシャルキャピタルを醸成するスキルの向上が求められる。

しかしながら、近年の保健師の分散配置や業務分担制等により、母子から成人、 高齢者の支援及び健康危機管理に至る、各分野の横断的な地域介入や地域住民と協 働した業務を経験する機会も少なくなっており、地域全体をとらえ健康課題を把握 する地域診断の取り組みも実践されにくくなっているのが現状である。

今後、保健師個々人の業務経験や担当業務に応じてシステム的に人材を育成する 研修プログラムや支援ツールの開発が必要と思われる。

Ⅲ 調査方法

部会委員によるヒヤリング調査と分析を行った。

ヒヤリング調査は、住民と協働した事業を継続的に幅広く推進している自治体、 及び住民主体の地域活動を継続的に展開すると地域団体を対象として、活動が発展 していった要因、人材育成の実際等の聞き取りを行った。

Ⅳ 調査期間

平成 26年 9月~11月

V 調査対象及び活動の特徴

1. 新座市 子育て支援に関するソーシャルキャピタルの醸成

新座市では、「NPO 法人 新座子育てネットワーク」と連携して子育て支援事業を展開しており、民間の子育て支援団体と協働することで、市民目線でのユニークな取り組みが広がっている。(※インターネット調査から)

2. NPO 法人新座子育てネットワークの活動調査

本法人は新座市の保健センター主催の育児学級を機に、参加者である母親同士の自主グループ活動から始まり、NPO 法人化に至っており、新座市に留まらず全国的な子育て支援活動やネットワーク構築の実践に広がっている。(※インターネット調査から)

3. 浜松市 高齢者等支援に関する調査

浜松市では、子育て支援、高齢者支援の多岐に渡る分野で、ボランティア育成等、ソーシャルキャピタル醸成の取り組みがなされ、各活動とも継続性や活動の広がり、人材確保の安定性が見られる。

※参考資料: 平成 24 年度の保健師長会指定都市部会の調査報告書「住民主体の地域づくりに向けた保健活動―地区組織活動に関する調査―(中間報告書)

VI 新座市の調査結果

1. 新座市の概要

(1) 地域特性

新座市は、埼玉県の最南端に位置し、地域の半分が東京に接している。

武蔵野の自然に恵まれた緑豊かな街であり、武蔵 野の面影を残す数少ない市である。

南部は東京都練馬区に隣接しており、中央部は野火台地という高台となっている。

この台地のほぼ中央部には、玉川上水の分水である野火止用水が東に流れている。

市の中央を東西に JR 武蔵野線が、東北部には



東部東西線が通っており、埼玉市まで 15 分、東京の池袋まで 30 分という交通至便の良い地域である。

行政計画として小学校区に 1 か所の子育て支援センター設置予定であり、全 17 か所設置計画のうち、現在 13 か所設置されている。

(2) 人口動態 (平成25年4月1日現在)

新座市は人口 162, 036人であり、25 年の出生数は 1,426 人、死亡数 1,191人でいずれもここ数年間横ばいの状況にある。5 歳刻み人口ピラミッドは つぼ型を示しており少子高齢化傾向が見られる。

- (3) 保健師配置状況(平成26年4月1日現在)
 - ①保健師数:35人(内1名は再任用)
 - ②保健師配置状況

所属	配置数	
子育て支援課	1人	26 年度から配置
保健センター	15人	地区分担及び業務分担
国民健康保険	4人	内 1 名は再任用
障害部門	5人	地区分担及び業務分担
肢体通園施設	1人	
高齢者部門	6人	
児童福祉部門	3人	

2. 新座市の子育て支援事業に関する事業の調査から

新座市保健福祉部 子育て支援課の活動についてヒヤリング調査を行った。子育て支援課には平成 26 年度から保健師が配置され、子ども子育て計画の策定、子育て支援センター事業の統括を主な業務としている。

(1) ソーシャルキャピタルの醸成

ソーシャルキャピタルの醸成には、地域住民との健康課題の共有が必要である。 新座市では子育て支援事業を委託している地域団体の活動報告書や子育て支援事業への参加者アンケートを基に地域診断を行い、地域の健康課題を行政と地域団体とで共有するとともに、子ども子育て支援計画の策定の基礎資料ともなっている。

地域の健康課題の共有には「見える化」することが必要であるが、地域団体の活動報告書において地域の実態や住民の声が、グラフ化、データ化されており保健活動の有用な資料として活用されている。

一方、地域団体では、活動立ち上げの過程で直面した問題解決のノウハウを集積 し、活動運営の手引き書としてまとめ、次世代の人材育成に貢献している。また、 子育ての当事者としてとらえた地域課題を多種多様な活動につなげ、子育て支援プログラム開発や行政への政策提案を行う有力なソーシャルキャピタルとして地域に根付き、発展している。

(2) ソーシャルキャピタルとの協働

新座市の子育で支援事業は、子育での拠点として子育で支援センターを小学校区単位に13か所(計画では17か所)整備し、NPO法人や地域ボランティア団体への事業委託によって、地域団体と協働で子育で支援の取り組みを充実させている。現在では地域の自主グループが成熟し活動が充実するに至り、新座市の保健師が自主グループ運営に直接携わることは少なくなっているが、民間団体ならではの迅速性やフットワークの軽さを活かした多様なサービス提供が可能となっており、厚みと広がりのある子育で支援が可能となっている。

このような組織的な協働が可能となっている一つの要因は、子育て支援事業を行政計画として位置づけ、行政と地域団体で地域課題や目的、成果を共有していることにある。

地域団体が、市民目線で気づいた地域課題を行政に提言し、地域ニーズを行政計画に反映して、住民主体での事業の企画、活動が実践されており、行政と住民との協働により有効な保健事業を展開する好事例と言える。

このような好事例から、人材育成のノウハウや住民主体の活動促進の具体的な工夫を学ぶことが、保健師や地域人材の育成に有効と思われる。

3.「NPO 法人 新座子育てネットワーク」の調査から

保健センター主催の育児学級の一参加者である「母親」の立場から自主グループを立ち上げ、全国的な活動組織に発展した「NPO 法人新座子育てネットワーク」の活動と新座市の保健活動との連携等について調査した。

(1)活動の発足

この活動は、保健師の声掛けをきっかけに、本法人の代表者が保健センター主催の育児学級の一参加者として連絡先を記入するための紙(連絡カード)を回したことが自主会の開催につながった。初めての集まりでは、教室では表出できなかった子育での思いや不安を共感し、母親自身が当事者として、子育で情報の不足という課題に気づき、解決には「何が必要か」「自分たちに何ができるか」が話し合われ、子育で支援情報の収集という自主活動に至っている。

負担感や不安感も伴うなかで自主活動が発足した要因は、①連絡先を記入するための紙(連絡カード)というツールを使った具体的な行動があった事、②個々人の子育ての不安を地域の課題として捉えた事、③「子育て情報の収集」という自分にできる具体的な行動が明確にされた事、④一緒に考え行動する中で、連帯感や信頼

関係が生まれている事、などが考えられるが、加えて⑤活動をけん引するリーダーシップを発揮できる人材が存在していたことが大きいと思われる。

(2)活動発展の経過と要因

この活動では個人の子育で不安にとどまらず、育児中の母親、これから育児を始める母親に共通する地域課題として捉え、情報収集を実践し、その成果を「子育で情報誌」としてまとめ、次世代の母親に伝承する縦方向へと活動が発展した。

また、「子育てサミット」の開催が、他の子育てグループとのネットワーク構築、 行政、マスコミ等の連携等、横方向への活動の発展の契機となっている。子育てサ ミットで、子育ての地域課題を全国の課題として共有し、ビジョンを明確にしたこ との発信効果は大きく、注目度の高まりなども活動発展の要因と考えられる。

さらには、活動組織をNPO法人化したことで、人材の確保や財源確保の活動基盤を強化し、行政の受託事業や、災害支援活動等多種多様な子育て事業の実践やプログラム開発、研修事業などへと活動が発展し続けている。

このように活動発展へのきっかけや取り組みはあるにしても、活動に関わる人の 思いやモチベーションが無ければ、活動の継続、発展は実現しない。この活動では、 地域の母親が活動に賛同し、母親自身が活動を支える担い手となり育っていること が重要な意味を持っている。解決すべき課題、活動の理念を共有することから「何 を、どうすべきか」をともに考え、実践し成果を分かち合うことでの仲間意識や連 帯感の深まりが、「楽しさ」や「やりがい」など、活動発展の原動力を生み出して いると考えられる。

(3)活動の成果

子育てサミットで7つの課題を明らかにし共有したことが、活動のバックボーンとなって、多岐にわたる活動を生み出し、成果を上げている。

〈課題 1〉子育て情報の不足

実践例:子育て情報誌の作成と行政窓口での配布

〈課題2〉子育てサークルの発足支援はあるが、運営支援がない

実践例:活動運営ノウハウの集積・提供、活動支援研修の実施

〈課題3〉子育てサークル運営にまつわる課題解決が困難な状況にある

実践例:サークル運営の人材育成の実践、運営ノウハウの蓄積と情報提供

〈課題4〉密室育児から解放するための居場所づくりの必要性 実践例:行政機関と連携した子育て支援拠点での支援の充実

〈課題5〉地域の母子の交流と子育て仲間づくりの機会の不足

実践例:地域子育て支援センターを拠点に子育て支援(行政の委託事業)

〈課題6〉地域の子育て環境を母親自らが向上させる場の不足

実践例:母親を活動人材として育成、被災地での子育て支援プログラムの実践

〈課題7〉ネットワーク化が進んでいる先進地域との交流不足

実践例:子育てサミットの開催や IT ツールを活用した世界との交流

(4) 人材の育成

課題のキャッチから解決に向けての学習会の開催や「企画、実践、評価」の PDCA サイクルの実践が人材の育成と活動の質の向上に成果をもたらしている。

実際の取り組みでは、①座学と実践の人材育成のプログラムや教材が整備されている事、②PDCA サイクルを有効に機能させている事、③経験者や仲間のサポート体制がある事④IT ツールの活用や大学連携等によって幅広い視点での情報収集と評価・研修のしくみがある事が特徴的であった。

①人材育成のプログラム

活動にあったては、「子どもの成長を地域で見守り、育てていく」という理念の共有を重視し、特別な資格を持たない地域の母親たちが、児童福祉や保育の基礎などの標準プログラムの提供により、学習する楽しさや効果を実感しながら経験者とともに身近な活動を実践し、力量を向上させている。

②PDCA サイクルの実践

日々の活動のプロセスとして、課題発見、対応策の検討・企画、実践、報告(振り返り)の PDCA サイクルが明確に組み込まれている。活動を振り返り、まとめることで新な課題への気づきから活動のブラッシュアップが図られ、発表の場での発信が関係者とのコミュニケーションの深まりやノウハウの伝承、達成感を実感する機会ともなっており、企画力やモチベーションの向上に効果をもたらしている。

③経験者や仲間のサポート

活動が発展し新たな事業が増えることは、やりがいもある反面、負担感や不安感を伴うことが多いが、この活動では IT ツールの活用によって、リアルタイムで活動を視覚化しながら同時にアドバイスを得られる仕組みや、情報交換会や研修会、報告会等様々な情報共有の機会があることから、安心して活動に取り組めている様子が感じられた。

代表者からは、「この活動での負担感や不満感を表出する者は少ない。『しんどいこと』は同時に『楽しいこと』であることを感じてほしい」という言葉があった。 困難な取り組みや、経験のない事業でも経験者のサポート受けながら、一人一人がアイディアを出して課題を解決することの達成感や自己効力感を感じることが、モチベーションの向上や人材育成に重要な意味を持っている。

④IT ツールの効果的な活用

IT機能の活用は、作業の効率化や会議時間の短縮化、視覚化などが可能となる。 IT機器に苦手意識を持つ人材も多いが、この活動では、特別に IT機器に強くなく ても、簡易な操作で活用できる機能を駆使し、テレビ会議や資料作成等の機能を活 用し、情報収集や学習ツールとして、効果的に導入している。

中には、IT機器に苦手意識や抵抗を持つ人材も多いが、これからの子育で世代への支援には IT ツールが有効な場面も多いため、IT活用のスキルの取得、伝承も

人材育成の一つの要素である。

⑤教育機関との連携

この活動は地域の母親を活動人材としているが、教育委員会と連携して、地域活動そのものを「母親の学びの場」とする社会教育の視点で、教育プログラムや 人材育成の仕組みが創られている。

また、大学等の教育関係者を研究者や助言者としての関係に留まらず、子育て 支援の仲間としての信頼関係を築き、活動の分析や評価を継続することが、いき いきとした質の高い事業の実践につながっていると思われる。

Ⅷ 浜松市の調査結果

1. 浜松市の概要

(1) 地域特性

首都圏と関西圏の二つの経済圏のほぼ中間に位置し、面積は、1558.04 平方キロメートル、静岡県の2割を占める。天竜川中流域の急峻な中山間地、扇 状地に広がる下流域の平野部、河岸段丘の三方原台地、そして、浜名湖から太平 洋の沿岸部にいって構成されている。温暖な気候。繊維、楽器、オートバイの三 大産業を持つ。平成19年4月より政令市となる。

(2) 人口動態(平成26年4月1日現在)

人口は、810,847人であり、出生数(平成25年)は、7,169人(出生率 8.82%)、65歳以上の高齢者数は、198,829人(高齢化率24.52%)である。戦後、急速に人口が増加し、同時期の居住者が高齢化している。自衛隊や企業に勤務する世帯の転出入が多い。医療機関には、恵まれているが、高齢者世帯は健康問題を家庭内で完結しようとする傾向がある。

- (3) 保健師配置状況(平成26年4月1日現在)
 - ①保健師数 193人
 - ②保健師の配置先

本庁 29人

保健所 14人

7区役所 健康づくり課(地区担当制) 116人

その他 34人

2. 浜松市及び『ヘルスボランティア活動連絡会』の調査から

(1)活動の発足

平成3年度の市民アンケート調査から「ボランティア活動をしてみたい」という回答(50.0%)を受けて、どこでどんなボランティアができるかわからずにいる人たちと、今後の高齢社会のために健康づくりに関するボランティア的な活動を地域ごとに組織できないかと検討を重ね、平成4年度にボランティア活動の養成のた

めに基礎講座を実施したことから始まる。講座にはボランティア活動に意欲のある 市民が多く参加した。

このことは住民の何かボランティアをしたいという気持ちと平成元年に介護教室を実施した際、「学んだことを生かしたい」という声で「地域健康づくりリーダー育成事業」を実施していた土台があり、自分の健康だけでなく他人の健康を思いやることや、学んだことを生かしたいという気持ちがボランティア精神ではないかと考え、結びつけて活動を模索し、住民の声を力に変えたことが大きいと思われる。(2)活動の経過

まずは健康づくりの必要性を共通認識し、地域の健康課題を考えられるようになる事を目標に、ボランティア基礎講座を1年かけて実施している。翌年は、地区の健康課題を探り、活動の実践に結びつくよう、ヘルスボランティアサポート事業として保健師が活動支援を行い、3年目に地区の特性に応じ、高齢社会のための自主活動(実践活動)を開始するまで、基礎講座から約3年間かけて地区担当保健師が継続的に支援を継続している。

保健師は、この3年間に地域の現状についての情報提供を行うとともに、ヘルスボランティアと関係機関や家族の会等とつなぐことを支援している。それによって、ヘルスボランティアは、関係機関や家族の会に出向き地域の生の声を聞き、地域の実態を知ったうえで、地域の課題解決に向けて話し合うことができ、ヘルスボランティアと地区担当保健師が、地域の現状から健康課題までの情報共有を図る事もできている。また、実際の活動を始める前には、他地区の活動を見学し、参考にしながら自分の地区の特性を生かした活動を開始している。

(3)活動の成果

ヘルスボランティアの数は288人(H26.4.1現在)達し、浜松市内に高齢者のサロン活動等、各地区の特性を生かした活動が33地区に広がり、平成3年から現在に至るまで活動が継続されている。

(4) 地域の人材育成

①ヘルスボランティア養成プログラムの存在

ヘルスボランティアの意味・意義が感じられる支援プログラムがあった。また、 ヘルスボランティア養成講座から始まり、ヘルスサポート事業で実践活動につなげ、 さらに自主活動に至るまでの一連のプログラムがあった。

②地域の生の情報収集

保健師と一緒にヘルスボランティアが、地域の関係団体、高齢者世帯への訪問など、直接地域に出向き実際の場面を見て、声を聴ける体験をしたことでデータと実態がより深く理解でき、活動の必要性を現実問題として実感している。

③自主活動の模擬体験

ヘルスボランティア養成講座のプログラムの中で地域での健康講話を行う体

験がある。その内容・講師の選定、地域のPR、当日の運営などをヘルスボランティア自身が企画運営する。この経験が自主活動実施の自信へとつながっている。 ④自主活動のイメージ化

ヘルスボランティアサポート事業では、他の地区の自主活動の見学やヘルスボランティア活動発表会への参加の機会を作っており、さまざまな自主活動があることを知り、これからはじめる自主活動をイメージすることにつながっている。 ⑤地区担当保健師の継続した支援

自主的な活動となるまでの3年間は、ヘルスボランティアの意見を大事にしながら、地区担当保健師がメンバーとともに、地域組織活動支援チェックシート(別紙 1:p31)を用いて活動を振り返り客観的に評価する支援を継続し、会の充実を図っている。

(5) 保健師の人材育成

①ヘルスボランティア養成講座は、保健師養成講座。

ヘルスボランティアの養成講座を行う保健師は、地域の実態を把握し、わかりやすい資料の作成や説明の工夫をしながら地域に情報を提供し、地域の団体とのつながりをつくる取り組みを行っている。このようなヘルスボランティア育成、支援の過程には地域把握の力量や資料作成、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等が求められ、保健師自身も学びながら地域とともに成長する機会であり、保健師の資質の向上を図る保健師養成講座とも言い換えられるものとなっている。

②職場のOJT

ヘルスボランティアの育成を行う地区担当保健師は、必要な情報提供、地域の 実態を知る場の紹介、関係機関へのつなぎ方などその都度、細やかに職場の先輩 や上司の指導を受けながら業務経験を積んでいる。

③客観的評価指標による評価

地域組織活動支援チェックシートによりヘルスボランティアとともに、1年に 1回自主活動としての評価を行い次年度の支援方法を決めて活動にあたっている。

(6)活動に対するモチベーションの維持、向上への支援

①活動の周知

ヘルスボランティア活動発表会を開催し、一般市民及び関係機関(社協・民生委員協議会・老人会など)に周知を図っていた。広報誌やテレビ・ラジオによる周知、民生委員など関係団体へは、保健師による声かけなどを通じてヘルスボランティアの活動の周知を図っている。

②ヘルスボランティアのスキルアップ

市内4か所の保健センターに各ヘルスボランティアの代表者が集まり、活動の 紹介や情報交換、意見交換等を行う「センター会」があり、スキルアップを図る 機会となっている。また、各センター会から選出された各ヘルスボランティアの 代表者で構成されたヘルスボランティア活動連絡会役員会が設置されており、ヘ ルスボランティアの研修企画なども行い、ヘルスボランティアの資質向上の役割 も担っている。

③浜松市健康増進計画に位置づけ

ヘルスボランティア活動連絡会は、浜松市健康増進計画「健康はままつ21」の推進協力団体のひとつとして位置づけられており、市のホームページにも掲載されている。また、ヘルスボランティア活動の中で得られた地域情報は、浜松市の健康増進計画に反映されている。

Ⅲ まとめ

1. 保健師の人材育成

ソーシャルキャピタルを醸成するために必要な人材育成のヒントを活動調査から 抽出する。

- (1) 顔の見える関係づくりのコミュニケーション能力の向上
 - 〇ソーシャルキャピタルの実践例や経験から、人と人をつなぐ介入の工夫
 - 〇コミュニケーションツールの開発・活用

【実際の取り組み】

- ・面識のなかった教室参加者が仲間として自主活動に至るには、声掛けだけで なく連絡先を記入するための紙(連絡カード)というコミュニケーションツー ルを使った具体的な働きかけの工夫があった。
- 高齢者の家庭や老人クラブなどに保健師とヘルスボランティアが一緒に訪問 し、顔をつなぎ、住民の生の声を聞き、困っていることなど実態を把握した。
- (2) 地域の現状の蓄積からビジョンを描けるスキルの向上
 - ○地区担当の変更があっても地域の実態を引き継ぎ、経年的にデータを蓄積し、 ビジョンを描き長期的計画が立案できる能力の向上

【実際の取り組み】

- ・地区診断シート(別紙2:p33)を用いて毎年地域診断を行い、経年データを蓄積している。
- リーダーからスーパーバイズを受けながら長期計画を立てている。
- (3)地域課題を把握し、組織内部や地域団体と共有するスキルの向上 〇地域診断により、エビデンスに基づき地域課題を明確化する力量の形成

○地域課題を視覚化し、発信するスキルの向上

【実際の取り組み】

- 地区診断シートを用いて地域の実態を蓄積し、経年的に見ていた。
- ・地域組織活動支援チェックシートを用いて住民とともに自主活動の進捗管理を行っていた。
- 保健師の活動支援の方法についてもチェックし、方向性を協議決定した。
- ・母親等の当事者が、悩みの共有から地域課題への気づきにつなげている。
- ・地域課題解決にむけての行動の結果を報告書として視覚化している。
- 地域団体の報告書を地域診断の基礎資料として行政計画に反映し、地域との 情報共有を図っている。
- (4) 住民主体の活動を促進するためのコミュニケーション能力の向上
 - ○教室や連絡会、訪問、面接等での住民とのコミュニケーションカ
 - ○保健師と関係職員が一体的に地域に介入することで、コミュニケーションの 幅を広げる。

【実際の取り組み】

- •「住民との協働」を方針に、首長自らが地域団体の活動や行事にきめ細かく 出席し、地域関係者と顔の見える関係を築いている。
- ・首長の姿勢が職員の地域介入やコミュニケーションの機会を増やしている。
- (5) 住民主体の活動を発展させる仕組みづくりの力量形成
 - ○活動の理念、目的意識、達成感の共有
 - ○活動の見える化等により地域住民や首長等の賛同を得、行政計画に反映
 - ○地域住民と信頼関係を構築し、行政と協働した安定感のある実施体制を確立
 - ○住民同士の仲間意識の醸成、活動経験者や行政のサポート体制を確立

【実際の取り組み】

- ・地域活動を行政施策として位置づけて方針を明確にし、評価・検証し、行政が責任をもって活動を地域に根付かせている。
- ・活動経験者や行政のサポート体制がある。
- ・地域組織活動支援チェックシートで自主活動を評価し、各保健センター内でも協議し、地区担当保健師の資質向上を図る体制があった。
- 各種研究会、学会で活動のまとめを発表し、活動を伝承している。
- (6) ソーシャルキャピタルとの連携・活用
 - ○日常業務で地域団体の活動の把握と顔の見える関係をつくる地域介入
 - ○関係職員との連携により地域団体とのチャンネルを増やす

〇活動のサポート・評価・公表等の組織内のしくみづくり

【実際の取り組み】

- ・区の地域の子育て支援策として、地域団体に地域子育て支援拠点での活動を 委託実施することで、市民目線でのフレキシブルな事業を実践し、事業の効果 や成果を共有している。
- ・民生委員、町内会、老人クラブなど地域の他のソーシャルキャピタルに活動 報告会の案内を行い活動の理解者を増やし、連携先を広げている。

2. 地域人材の育成

(1)地域人材の発掘

- ○地域には、様々な職歴や特殊技能を持つ人材が潜在している。
- ○地域住民と顔の見える関係をつくり、人材情報を把握・蓄積

【実際の取り組み】

・特別な資格を持つ人材でなくても、共通の思いを持つ地域の母親が活動を支えている。ともに活動し、親近感が深まる中で個々人の職歴や特技を把握し、活動に活かされている。

(2) 地域人材の育成

- ○大学等との連携による教育プログラムの開発
- 〇知識普及、実習、実践事例の共有等を組み合わせた OJT
- OIT ツールを活用した遠隔講習や情報提供、アドバイスの提供
- 〇企画、実践、評価の PDCA サイクルの定着

【実際の取り組み】

- ・特別な資格を持たない地域の母親に、基本的な研修に加え、経験者のアドバイスや活動のネット視聴などで学習しながら経験を積む OJT を実践。
- 個々人の資質を大切にし、身近な活動に取り組みながら振りかえりを行い、 発表の場を経験することで実践力を高めている。
- ・自主活動の発表を聞き、自主活動のイメージを持った。
- ・先駆的自主活動に参加する機会をつくり、実践経験を積んだ。
- 自主運営できるよう事業の企画から実施まで自らが行う研修体制がある。
- 地域住民とともに地域組織活動支援チェックシートを用いて活動評価を行い、活動の充実を図るとともに、自主運営ができるよう助言している。

(3) 地域人材のモチベーションの維持、向上

- ○活動の理念の共有による一体感や相談・支援が得られる信頼感
- OPDCA サイクルを定着し、達成感や効果を実感
- ○新たな取り組みや難易度の高い取り組みの達成感を面白さとして体験
- ○地域の声からの成功体験を積み、自信になっている。

【実際の取り組み】

- ・活動の意義や理念の共有がバックボーンにあり、テレビ会議等によって、 常に情報交換やアドバイスが得られる事、新たな活動に取り組むことの楽 しさや苦労を共有する事、活動の評価による達成感の実感等が、チャレン ジ精神や意欲を高める要因となっている。
- ・道路の段差に困っている高齢者を抱える家族の声を聞き、行政に相談。予 算の関係で時間がかかると言われたが、地域の人に相談。地域が動いたこ とで段差の解消につながった。行動を起こせば解決できるという自信がつ いた。

区 考察

都市化や価値観の多様化、地縁血縁希薄化や孤立化が近年の課題となっており、 地域住民の健康課題も子育て期から高齢期、危機管理と多様化し、かつ複雑になっ ている。これらの健康課題の解決のために、保健師が果たすべき役割として地域住 民と協働した活動の展開が求められている。

ソーシャルキャピタルを活用した健康なまちづくりの推進に向けて、実践事例の ヒヤリングから保健師の果たすべき役割と必要なスキルの向上について、考察した。

1. 保健師の人材育成

(1) 地域診断、資料化、情報共有のスキルの向上

ソーシャルキャピタルの醸成には、地域課題を地域と共有することが不可欠であり、地域診断からエビデンスに基づく地域課題を明確にし、可視化するスキルや情報収集・発信力を向上することが必要である。

そのためには、住民の声を聴きアンテナを張って、個々のニーズや地域人材、コミュニティ活動などの地域情報を記録に残し、いつでも取り出して活用できるよう得られた情報を蓄積・分析する「地区診断シート」というツールを用いて日常業務の中に地域診断を定着させる地道な取り組みを意識的に積み重ねていくことが必要である。また、情報の資料化や発信力の向上については、保健師間の

連絡会や地域との情報交換会等でのプレゼンテーションなど段階的に実践の場 や経験をステップアップしていく OJT も力量形成の一つの方法と考えられる。

(2) 住民主体の取り組みを支援するスキルの向上

今回の調査の活動例では、①自らの課題への気づきから活動の意義や必然性を 共通認識し、②課題解決の行動を「自分たちでできること」として具体化したこ とで、行政から「やらされていること」ではなく「やってみたいこと」③「面白 いこと」④「ぴんぴんころりといくために地域で何かしたい」と気持ちが動いて いることや当事者意識が、住民主体の活動促進要因と思われた。

住民主体的の活動促進の要因①である地域課題への気づきを促し、「なぜ、何のために活動が必要か」ということ共有することが活動の背骨を創るプロセスとして重要であり、住民主体の活動支援事例のノウハウを抽出し、伝承していくことが保健師のソーシャルキャピタル醸成の力量形成につながると考える。

要因②の、「自分たちにもできる」ということを実感するためには、具体的な活動をイメージできる働きかけや、活動立ち上げの不安な気持ちを把握し解決していく対応が必要である。今回の実践例では、活動団体が自らの経験を基に住民目線で活動の手引きを作成し、行政の刊行物として普及していた。

手引き書には、活動開始時に共通した悩みや困りごとである場所の確保や会の 運営の具体的な行動、相談先などの情報が盛り込まれている。また、保健師と訪問し地域の生の声を聞いて課題を知り、活動発表会で具体的な活動をイメージし、 他の先駆的活動に参加し、実際に住民自ら企画から運営までを体験するプログラムがあったことが、自主活動への自信につながった。このような活動支援のツールを住民とともに実際の経験知をまとめ、活かしていくことは、保健師、地域人材の実践力の向上に有効な取り組みと考えられる。

要因③の参加者自身が「面白い」「ぴんぴんころりといくために地域で何かしたい」と感じている背景には、悩みを共有し、活動することで仲間意識や信頼関係が深まり、集まりそのものが楽しいものとなっていると思われる。また、「しんどい」は「面白い」「ぴんぴんころりといくために地域で何かしたい」という活動団体の代表者の言葉の裏には、安心感のあるサポート体制の中で、困難な課題にチャレンジし、解決のアイディアを出し合い、結果を出していくプロセスを楽しめる環境や人とのつながりや、ひいては生き甲斐に繋がっていることが伺われた。

このような関係ができていく過程にはスタッフ間の緻密な情報共有が鍵となっている。IT ツールの活用による活動内容の視聴やテレビ会議等が、他者の活動をタイムリーに追体験することや常にコミュニケーションを図り、スーパーバイズを受けることを可能にしている。

高齢者社会を考えたときに要因④の「ぴんぴんころりで逝きたい。地域のために何かしたい」という当事者意識が、地域活動を開始する源となっていた。

また、住民主体の活動が地域内で認知されており、住民の信頼を得ていること や活動の意欲を高め、活動の振り返りの中で達成感や自己効力感を実感すること が、活動を発展させるモチベーションともなっている。

X おわりに

平成 25 年度に厚生労働省から出された「地域における保健師の保健活動に関する指針」では、地域診断に基づく PDCA サイクルの実施や地区担当制の推進やソーシャルキャピタルの醸成が明記されている。

今回の調査で、自治体及び当事者グループの皆様に協力をいただいたことで、 地域の生の声から人材の育成、協働の様々な工夫について知ることができ、ソー シャルキャピタルの醸成に果たす保健師の役割やスキルの向上に有用なヒントを 得ることができた。

NPO 法人新座子育てネットワークの活動報告書にあった、「人を育てる最高の装置は、人々の関係の中にのみ生まれ、存在する」という言葉に示されているとおり、保健師のスキルも地域人材や教育関係者等、様々な人材とともに実践を重ね、振り返ることで積み上げられていく。

自治体ごとに業務の体制や地域資源の格差など、保健師活動の背景は異なるが、 この報告書が保健活動の参考になる事を願い、この調査にあたりご協力頂いた皆 様に深く感謝申し上げたい。

【ご協力いただいた皆様】

- 新座市福祉部子育て支援課
- 浜松市健康福祉部健康増進課
- ・NPO 法人子育てネットワーク新座
- ヘルスボランティア活動連絡会(浜松市)

平成26年度 指定都市・政令市・中核市・特別区メンバー

〇内野 栄子 神戸市こども家庭局こども企画育成部 こども家庭支援課

清水 京子 倉敷市保健所 健康づくり課

佐藤 一江 練馬区健康部北保健相談所

難波 敏子 宇都宮市保健所 予防衛生課

門馬 ひとみ 川崎市宮前区役所保健福祉センター 児童家庭課

資料-1 新座市の調査から(※調査結果の部会調査者による考察)

1. 保健師の役割

1. 沐庭師の方	
項目	内容
保健師の役割	①住民主体の活動のきっかけづくり
	・行政主導の教室受講型から住民主体の活動につなぐ声掛け
	• 自主回開催のための具体的な行動や活動のノウハウの提供
	②地域人材の発掘
	・日ごろの保健活動の中で住民の個性や特技、技術を把握する
	・地域の活動団体を把握し、関係者と顔の見える関係を作る
	③地域人材の育成
	・教育機関や地域団体と連携し幅広い視点での研修・評価の仕組みづくり
	• 活動団体間の交流や報告会等の企画によるスキルの伝承、向上
	・実践事例のノウハウの蓄積と提供(運営の手引き等の支援ツールの提供)
	④地域の活動団体や事業者等と連携、交流の仕組みづくり
	・情報交換会等を通じて団体の活動内容を共有し、活動の活性・促進を図る
	• 連携のきっかけとなるイベントや発表の機会を設ける
	⑤住民主体の活動を継続するシステムづくり
	・協働や委託等、行政との役割分担や位置づけを明確にし、財源確保や必要
	に応じ、人材派遣や場の提供を行う
	• 行政計画への反映や広報、活動内容を可視化し、首長の認証等を得る
	⑥地域団体と連携し支援の幅を広げる
	• 住民目線での地域課題の把握や解決の仕組みを有効に機能させる
	• IT ツールの活用など、行政の枠組みを超えたフレキシブルな活動の推進
参加者が楽しく	①暖かい人間関係や信頼関係が培われ、相互交流を促進する介入
感じる工夫	②参加者の思いや気持ちを十分に聴き、活動の意義や価値感を共有
	③負担感が無いよう、具体的な取り組みの方針や手法を明確に示す
	④自己効力感を感じられるよう、技能や特技を生かした実践の場を提供
	⑤アイディアを出し合う事や工夫することの面白さの体験を増やす
	⑥達成感が得られるよう活動の成果を可視化し、共有する

項目	内容
参加者のニーズ	①住民の思いをよく聴き、地域情報の分析等と併せエビデンスを明確にする
尊重の工夫	②個々人が感じている課題を関係者で共有できるよう「見える化」する
課題の共有	③個々人のアイディアを自由に出しあえる場や風土を作る
活動を継続する	①住民と顔の見える関係をつくり、地域ニーズや人材等の情報が入りやすい
ための工夫	地域介入を行い、地域情報を蓄積する
	②地域の課題と活動の意義を共有し、解決に向けて考える機会を作る
	③自分にできる活動を具体的にイメージし発展させるための事例等を示す
	④地域課題から具体的な活動のイメージを視覚化する
	(子育て情報がない→情報収集→情報紙を作成→発信等の発想の視覚化)
	⑤活動を行政施策への反映や協働など、安定的な活動の基盤づくりの支援
	⑥活動の成果を蓄積し伝承する仕組みをつくる
	⑦首長や関係職員の活動への関心を高め、賛同が得られるよう活動を評価
	し、成果の可視化・発信する協働の意識が高く、活動を担う住民と顔の見
	える関係ができている
グループの主体	①サークル運営のポイントや専門家の支援等の具体的な情報を提供
的な運営支援	②住民自身が実践から得たサークルの立ち上げのヒントやノウハウを提供
	• 活動を立ち上げの戸惑いや困りごとから得たノウハウを住民自身が情報
	誌として編集した情報誌を配布
	③「やってみよう」「できそう」という取り組みやすい活動を提案

2. ソーシャルキャピタルの醸成に必要な保健師人材の育成

項目	キーワード	取り組みの実際
健康課題の	地域診断	①行政情報や関係団体の報告書等から地域情報を把握
共有		・市民アンケート等を参考に地域把握
		・事業委託している NPO 団体の活動報告書
		・子育てサークル参加者の声や地域団体の提言
		②把握した情報を分析し、子ども子育て計画に反映
地域情報収	情報収集	①市内の地域子育て支援センターの情報交換会に出席
集•提供		・年4回開催される情報交換会に年1回出席
		②事業委託している地域団体の活動報告から情報収集
		・地域の母親の声や思い、課題解決の提案を吸い上げる
		③日々の保健師活動から地域情報を収集
	情報提供	①子育で情報誌の作成と発行
		・事業委託する民間団体が主体的に作成した情報誌を行政や関
		係団体の窓口にて配布
		②広報紙、市の計画、発表会等で関係情報や活動を公表
	情報の蓄積管	①委託事業の報告書を蓄積・管理
	理	②子育情報誌の情報更新と蓄積管理
	目的の共有	①行政の子育て支援計画に活動を位置づけ、目的を共有
地域人材と		・子育て支援センターの設置目的・内容の公表と共有
の連携		②連絡会や報告会に出席し、活動目的・内容の共有
	信頼関係の構	①首長の行政指針が「住民との協働」であることを発信
	築	②市内 680 か所の地域団体の活動に首長と職員が出席
		市民と顔の見える信頼関係が築かれている
		• 職員の市民協働の意識も高まっている
	行政の計画へ	①毎年提出される委託事業の報告書を施策に反映
活動の見え	の反映	・地域の声や提案等を事業企画や計画に反映
る化	発表の場、広	①子育てサミット等のイベント開催や活動報告会の開催
	報	②活動の成果物である情報誌の配布
地域支援	研修	①現在、研修や OJT の実践は無い。
スキルの向	OJT	既に、地域団体の主体的な活動が定着しており、地域活動の
上		立ち上げ支援等に保健師が介入する機会が無いため
マニュアル	住民活動支援	①NPO 団体が作成した子育て支援サークル運営のポイントを
の整備	マニュアル	情報誌に掲載し、広く普及

3. 地域活動を実践する地域人材の育成

項目	別と夫成9 る心 キーワード	具体的な取り組み
健康課題の	地域ニーズの	①当事者としての問題意識や気づくことを促す
気づきと共	把握	②子育てサークル等の参加者の声を把握し、視覚化する
有		③IT ツールの活用等で、社会的な動きを幅広く把握
		④行政の持つ情報や他の活動情報を提供する
地域支援力	地域活動の意	①地域課題の気づきから、当事者として解決すべき事は何か、
の重要性の	義の共有	できることは何か、なぜその活動が必要かを考える機会をつ
認識を深め		くる
る		・同じ悩みを持つ母親同士の気持ちの共有から相互支援の必要
		性や意味を実感する機会を持つ
		②活動が目指すものやその効果をイメージする
		・他者とつながる楽しさを感じ、集まりそのものが孤立感の解
		消や生活を活性化することを実感できる
		•活動の中で学ぶことの楽しさや一人ひとりの育児力や地域の
		支援力が向上することを実感し共有する
行政との連	情報収集、還	①情報交換会、交流会等の企画による情報の共有
携、地域貢	元	②行政からの子育て支援の地域情報の収集と還元
献等		③活動報告書等による行政への提言や還元
		④活動から得られたノウハウや実践ログラム等を提供
		⑤インターネットでの活動の公開や活動見学の受け入れ
		⑥支援プログラムの開発と提供及び研修会の開催
主体的な活	モチベーショ	①スタッフ間の情報共有
動の促進	ンの維持向上	・テレビ会議の導入等によるタイムリーな情報共有
		・担当者会議でのゼミ、フェイスブック等によるベテランスタ
		ッフの活動を知る
		②面白く仕事ができること
		・興味のある事業やる気の出るプログラムを工夫
		• 頑張った体験を発表できる場を作る
		③新たな事業に取り組む楽しさを感じること
		・スタッフ間の信頼関係やサポートによる安心感の中で
		緊張感やわくわく感を感じられる
		④「しんどい」と「面白い」を経験する
		困難さの中で工夫やアイデアが生まれる面白さ
		⑤活動振り返り、成果を確認し達成感を得る
		・困難さの中で工夫やアイデアが生まれる面白さ

項目	キーワード	具体的な取り組み
	無理ない活動	①基本的な研修プログラムの開発等によるスキルの提供
	の工夫	②当事者目線でのアイデアが提案できる風土づくり
		・自分の経験やスキルを活かした活動の実践
		③活動をイメージ化しやすい環境づくり
		・IT ツールの活用で随時、情報の収集や相談可能な
		• 他の取り組みや実践例を共有できる環境づくり
		• 活動の楽しさや意義を体験するきか
		④活動の支援やアドバイスを行う経験者の存在
	活動運営のス	①「地域子育て支援士二種養成講座」の受講
	キル研修	(試験あり、来年は一種に)
		②ガイドラインに基づく研修の実施
		③活動ゼミや情報交換会等参加型の研修の実施
		(基礎研修:児童福祉、親子支援の基礎知識)
		④活動をまとめ発表の場を設けることで、個人の実践経験を関
主体的な活		係者のスキルとして共有する仕組みを構築
動の促進	経験者との情	①フェイスブックやテレビ会議等、他者の実践をリアルタイム
	報交換	で、映像を見ながら共有し、情報交換を実施
		②活動の報告書を介して経験者の体験や情報を伝承
		③会議等で、経験者からアドバイスやヒントを提供
	活動体験	①地域の母親が、活動の楽しさや意義を支援の受け手とし体験
		することが支援者としての実践のベースにある
		②IT ツールの活用によって、他者の実践を追体験する
		③経験者と新人が一緒に活動を実践する機会を持つ
	実践事例の蓄	①活動の結果をまとめ、実践事例として蓄積・伝承する
	積、分析	③大学連携により、活動の客観的な評価、分析を実施
人材育成の		①座学と実践の両面から人材育成プログラムを整備
しくみ、プ		②実践をサポートし、タイムリーにスーパーバイズする人材の
ログラムの		配置や IT ツールの活用
整備等		③PDCA サイクルの実践によって、新な気づきから企画力の
		向上や事業をブラッシュアップする仕組みの構築
		④ゼミ等でノウハウを伝承する仕組みづくり
		⑤個々人の特性や特技を発揮する機会の提供

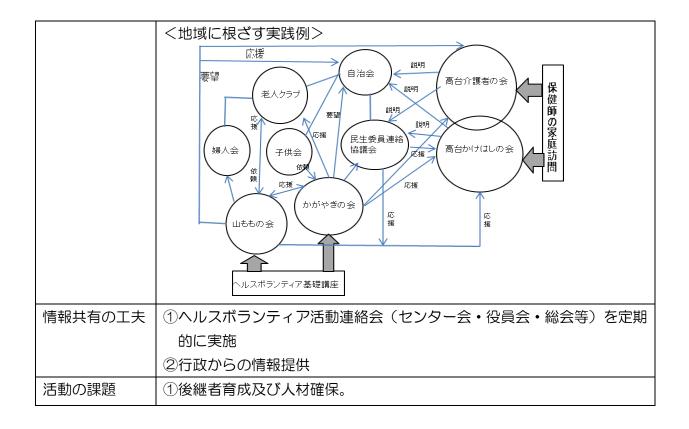
資料-2 浜松市の調査から(※調査結果の部会調査者による考察)

1. 活動の概要・成果

項目	内 容
地区組織の名称	ヘルスボランティア活動連絡会
発足年度	平成8年度
会員数	288人(H26, 4, 1現在)
活動目的	自分や家族の健康の大切さ、健康の必要性を理解し、地域に目を向け子ど
	もから高齢者まで安心して生活できる町づくりを目指す。
活動資源	① 参加者、スタッフからの実費費用徴収(200円程度/1回)随時
	② 自治会、地区社会福祉協議会(社協のボランティア活動としての位置づ
	け)からの補助金
	③ イベント等の収益 *行政からの補助金はなし
活動内容	① 地域支援活動(ふれあい活動、友愛広場の参加等)
	② 健康知識の習得・情報共有(ステップアップセンナー・センター会・総会等)
	③ 保健事業への参加、協力
活動のきっかけ	①平成4年度に地域健康ネットワーク事業として開始
	②平成4年から平成18年度まで養成講座を開始し、市内33地区で健康
	づくりボランティア基礎講座を実施。
	③地区担当保健師と地区活動について考え、高齢者サロン等を立ち上げる。
活動の特徴	①浜松市ヘルスボランティア養成講座から、地域の課題と高齢化社会に向
	けて地域住民ができることを保健師と地域住民がとともに考えた。
	②地域に子育てサロン、高齢者サロンなど自主的に立ち上げ、地区活動を
	実践している。
	③記念イベント、コンサートを開催し地域の活性化に貢献した。
活動の成果	①ヘルスボランティアが健康づくり実践者として組織化され、地域に根ざ
	した活動を展開する、自立した地区組織として発展した。
	②市内の各地域で高齢者対象のサロンや訪問グループ、高齢者の食事作
	り・レシピづくり・弁当宅配と話し相手、高齢施設への慰問、広報誌を
	高齢者にかみ砕いて伝える役割など地域ごとの特徴を生かしながら実践
	ができている。またその活動が約20年間継続し実施している。
	③ヘルスボランティアが自治会や民生委員等への働きかけで歩道の段差改 ***********************************
	善につながった事例もある。
	④ヘルスボランティアを通じてケースの様子や地域の問題点等の把握が容
	易になり、地域における健康づくりパートナーとなっている。

地域健康ネットワーク事業(平成4年度	~)	
1)事業目的	*************************************	ナー・ウェナの体点ロマはの言葉にはないのちがった
健康づくり美銭有として、地域の高齢・ランティア活動を住民自身が地域の中で		成し、寝たきりや痴呆予防の高齢化対策につながるボールと組織の活性化を図る
フラブイア治動を住民自身が地域の中で	美成できることをめるし、住民の組織	製116~2世間の方面は16を図る。
2) 事業の概要		
乙)争未仍恢安		
募集:*自治会へ依頼しチラシの配布、	ポスターの掲示 *公民館だよりに丼	掲載 *保健師の地区活動で参加勧奨
(1) NJIQボランティア基礎講座	(2)ヘルスボランティアサポート事業	(3)高齢社会支援地区組織育成
≪目的≫成人病予防とねたきり予防	≪目的≫ヘルスボランティア基礎	講 ≪目的≫ヘルスボランティアによる → 自
の学習により、高齢者の健康づくり	座での学びを基に、地区の健康問題	
につながるボランティア活動を考え	を探り、活動に結びつくよう導い [*]	て 実践活動の継続に向け支援する。
ි	U1<.	th.
≪内容≫	≪内容≫	
・生活習慣病や寝たきりの予防	一・ヘルスボランティア全員で年間	計 ・高齢者の健康づくりにつながるボ 編
・高齢者の健康な食生活	画を立てる。	フンティアの実践。 織
・老人や障害者との交流	・保健師を中心に学習し、地域の作品の	
・介護体験より学ぶ ・自分の町でできそうなことを考え	→ 康問題を探っていく。→ 健康問題の解決策を検討し、実施	閉じこもりがちの老人を連れ出す
* 自力の前 C C a C フ な C C を 5 え	」 ・ 健康问题の解決保を検討し、 夫!	成
		327803 2011 3032 3
《回数》月1回×12回	≪回数≫月1回×12回	≪回数≫各会場毎で決めていく

(4)健やかな高齢社会をめる		(5) ヘルスボランティアリーダー交流会
≪目的≫高齢者の健康づくりを支援して		
の日頃の活動を発表する機会とし、その	をし、活動の啓発を図る。	
ティアによる活動の啓発を図る。		
≪内容≫ ①実践活動の発表(3組織)	②講師による総評と講演	≪内容≫意見交換、情報交換



2. 保健師の役割

項目	内容
住民の役割	①地域住民は、自分たちの気持ちに合わせた事業を楽しみに参加して
	いる。
	②ヘルスボランティアは、高齢化対策につながるボランティア活動を
	主体的に地域の中で実践している。
	③保健師のサポーター役として活動してくれている。
活動への思い	①ヘルスボランティアは、高齢者問題は、「他人のことではない」「自
	分のこと」として地域の課題を考えて活動している。事業への参加
	者は、毎回、楽しみにしている。
	②自らがヘルスボランティアを続けたいために自主的にいろんなとこ
	ろに行って、学びを深めている。
参加者のニーズ	①ヘルスボランティアは、地域での一人暮らしの高齢者にとって必要
	なことは何かについて、日頃の訪問、声かけの中で、住民の悩みを
	聞いている。
参加者の自主性	①参加者が、一人で食事をするのは寂しいとの意見を受け止め、簡単
の工夫	な昼食をどんぶりでだすことになった会もあり。参加者の声や要望
	を大事に、運営に反映させることで、参加者の継続参加につながっ
	ている。
	②誰でも参加できる場となるように、地区社協や町内会から補助して もらい、参加者の費用負担額を抑えている。
	3ヘルスボランティアは、参加者ともに楽しいからと自主的に参加し
	ている。楽しいと思えることが、継続にもつながっている。
	4参加の中で、参加者の意見を聞いたり、事前の準備をボランティア
	同士で進めることでボランティア同志の絆も深まっている。
 課題共有の工夫	①ヘルスボランティアで活動前に集まり、準備をしたり、研修会を開
	催することで、高齢者の問題の共有を図っている。
\T\$\ 0.T - \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
活動のモチベーショ	①ヘルスボランティアは、高齢者問題は、他人のことではなく自分の
ン(主体性の担保)	こととしてとらえ、地域の課題を考え活動しているため、活動への 意欲は高い。
(主体性の担保) 	思めは高い。 ②センター会、地区会で意見交換することで、活動の継続への意欲を
	②ピンダー会、地区会で思見交換することで、活動の極続への思訳を
	ぶんとかのられるととで、11以に加動が高められていると高端して いる。
	V · O0

3. ソーシャルキャピタルの醸成に必要な保健師人材の育成

項目	キーワード	具体的な取り組み
健康課題の	地域診断の	(1)プリシードプロシードモデルのワークシートを参考に、地域
共有	実際	診断シーを作成し、地域診断を実施。
		②地域の老人クラブや、地区社協、高齢者宅の訪問などに地域
		の情報を把握し、地域の健康課題の把握を行っている。
		③保健師は、ヘルスボランティアと一緒に地域の実態を話し合
		い、健康課題を考えている。
	情報収集の	①老人クラブ、自治会、民生委員、訪問先の声、寝たきり者、
	仕組み	介護者の声などから地域の実態を把握する。
		②ボランティア基礎講座参加者を育成し、地域の情報を得る
地域情報の	情報提供の	①地区担当保健師から、地区統計データを提供して、地域の
収集•提供	仕組み	実態をヘルスボランティアに理解してもらう。
		②地区担当保健師は、地域の実態を様々な地域会議の機会に情
		報提供して高齢者の実態の共有を図る。
	情報の蓄積	①地区診断シートを活用し、地域の情報を集めている。
	管理	②地区担当保健師が次期担当保健師に引き継ぐことで、地域
		の人材を蓄積している。
	活動目的の	①自主活動をサポートする中で、地域の高齢者の実態及び健
地域人材と	共有	康課題を住民に伝え、ヘルスボランティア活動の必要性につ
の連携		いて共通理解を得ている。
		②ヘルスボランティア活動発表会(平成13年度まで)で、ヘ
		ルスボランティアリーダー交流会などを行ったことで、メン
		バー同士は今までの自分たちの活動が見え、意味あることが
		自覚できたり、保健師もまとめる作業を通じて組織としての
		活動の方向性が見えた。
	住民との信	①自主活動構築まで地区担当保健師が関わり、地域の中で活動
	頼関係の構	が位置づけられるよう支援を行い、地域の信頼を得た。
	築	②自主活動を行うグループの発表する機会をもうけている。
地域活動の	行政の計画	①各保健センターで自主組織活動を集めてセンター会を行い、
見える化	への反映	目的の確認や、意見交換を行い、活動の計画、成果などの共
		有を図っている。
		②自主活動のモデル的な実施の際には、行政からの予算を使っ
		て講演会の企画の練習を行っている。その後の予算は、地域

項目	キーワード	具体的な取り組み
地域活動の	行政の計画へ	域の町内会や地区社協などから予算を得ている。
見える化	の反映	③ヘルスボランティアの活動は、第2次浜松市健康増進計画
		のはままつ 21 推進協力団体に位置づけられている。
	発表の場づく	①ヘルスボランティア活動発表会を開催し、活動の成果を発
	り、広報	表し、後につづくグループに活動のイメージをつける場と
		して組織の活性化を図っていた。
		②ヘルスボランティアの活動発表会は広報誌での周知や、ち
		らしを作成して保健師からの地元住民への声かけなどを行
		っている。一般市民に対するボランティア活動の啓発とな
		っていた。
地域活動支	研修プログラ	①地域の実態をどう見せるかについて、地区診断研修会を新
援、スキル	ムの有無・内容	任期に行っている。
の向上		②地区担当保健師がヘルスボランティアの養成を行う過程
		で、地域の情報を収集し、健康課題を抽出し、課題解決に
		ついて住民とともに考える事で地域活動支援スキルの向上
		を図っている。
		③ヘルスボランティア活動発表会で、まとめ作成時の助言や、
		スキルアップ研修会を開催し、活動に必要な情報を提供す
		るなどその都度、何が必要かを考えながら行っている。
	OJT の実際	①ヘルスボランティア活動発表会で、まとめ作成時の助言や、
		スキルアップ研修会で必要な情報を提供するなどその都
		度、何が必要かを職場の指導者に相談しながら行っている。
		②地区担当保健師から次の担当保健師への引き継ぎで、活動を継承している。
マニュアル	住民組織育成	①ヘルスボランティア基礎講座、ヘルスボランティアサポー
の整備	支援	ト事業、高齢者社会支援地区組織育成、自主活動の一連の
	マニュアルの	支援体制があった。また現在は、センター会、役員会を開
	有無	催し、ヘルスボランティアを支えている。
	.3/	②ヘルスボランティアの自主活動については、地域組織活動
		支援チェックリストで、レーダーチャートにして保健師が
		落ちこみを確認し、次年度の支援目標を決め支援している。
		(別紙1 地域組織活動支援チェックシート)

4. 地域活動を実践する地域人材の育成

項目 キーワード 具体的な取り組み 健康 課題 地域の実態把 ①ヘルスボランティア基礎講座で、地域の人口動態やの気づき 握 を学ぶ。また、老人クラブ、高齢者、家族などから: 齢者の声を聞き、地域の高齢者の実態を知る。	建康課題
の気づき 握 を学ぶ。また、老人クラブ、高齢者、家族などから	~= /~ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
	地域の高
	יבול מילים.
②地区担当保健師とメンバーとで、地域の高齢者につい	ハで話し
合い、高齢者の健康課題について共有する。	,
地域活動 地域支援力の ①ヘルスボランティア基礎講座で地域活動の必要性(こついて
の意義 重要性 話し合い、共通理解する。	
②ヘルスボランティアの会の活動は、地域の実態から	
を見出し、地域住民に伝え、活動の理解を得て、自然には、	台会から
の活動資金の支援が得られている。	
情報提供、還元(①ヘルスボランティアの訪問、近所の人からの情報、	高齢者自
の仕組み 身からの連絡などにより、地域住民の情報を得てい	る。ヘル
スボランティアの活動を老人クラブ会長や参加者、」	民生委員
などに伝えている。地区担当保健師と情報を共有し	ている
②ヘルスボランティア基礎講座で、地域の人口、高齢	化率、地
域の健康課題などを知らせている。	
③自治会、老人クラブ、民生委員などにヘルスボラン・	ティアの
活動を伝え、地域の高齢者の声や活動参加者の情報	吸を収集
し、活動を検討している。	
④ヘルスボランティア発表会で活動の成果を公表して	いる。
主体的な モチベーショ ①自身が楽しみながら活動できるように、研修会の開	崔や事前
活動の促 ンの維持向上 打ち合わせ会など、見学や外出の機会となる内容を	取り入れ
進る工夫をしている。	
②センター会で活動紹介しているが、老人クラブなど	からレク
レーションの依頼をうけるなど、地元でのヘルスボ	ランティ
ア活動の認知度が高まっている。	
③ヘルスボランティア発表会は広報だけではなく、ち	うしを作
成し、保健師が保健活動の場、民生委員などに直接	呼びかけ
て、ヘルスボランティアを地域住民への周知を図っ	た。
④活動をまとめ、ヘルスボランティア発表会という大!	勢の場で
発表することで、やればできるという達成感を味わ	ハ、活動
の意味を自覚し、組織の結束力や活動への意欲の向	上、自信
につながっている。	

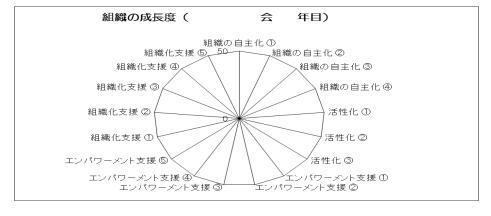
項目	キーワード	具体的な取り組み
主体的な	モチベーショ	⑤まとめ作業の過程で、定例会の参加者一人ひとりの状況把握
活動の促	ンの維持向上	につながり、活動の方向性を考えやすくなった。
進		⑥メンバーと新しい地区担当保健師に信頼関係ができ、保健師
		とともに「今後もこの活動を大事にしていこう。」という気
		持ちの再確認や自信につながった。
	無理のない活	①サロンや老人クラブなどの活動計画は、各地区が無理のない
	動展開の工夫	範囲で話し合いの上決定しているため、開催回数は各地区活
		動で様々である。
		②活動の参加は、各自が得意分野(調理、歌、レクレーション
		など)を発揮して活動に参加している。
		③各グループのリーダーは、ボランティアの資質、力量を把握
		して役割を分担している。
活動推進	活動運営のス	①ボランティア基礎講座で、老人クラブなどでのレクレーショ
のスキル	キル研修	ンの実践、医師による講演会の開催の企画から実施まで行
の提供		い、運営方法を学ぶ。
		②組織の成長度を地域組織活動支援チェックシートを用いて
		毎年自主活動の評価をしている。
		③各センターで開催されてるセンター会(各地区3から4回、
		年 14 回)やスキルアップ研修会で意見交換し、サロン運営
		やレクレーション、健康情報などについて情報を得ている
		④ヘルスボランティアの活動依頼が老人クラブからあり、地域
		の中でも知られている。
	経験者との情	①2年目には、他のヘルスボランティアの活動に参加し、具体
	報交換	的活動について情報交換している。
		②各センターで開催されてるセンター会(年 14 回)及びヘル
		スボランティア活動連絡会役員会(年6回)で情報交換して
		いる
	活動体験の機	①2年目には、他の地区活動を見学や体験を行う。
	会の提供	②町内会や老人クラブに保健師とともに参加し、遊びりテーシ
		ョンなどの経験を積む。
		③地域住民を対象に、健康についての講演会を企画し、実施す
		る経験を積む。

項目	キーワード	具体的な取り組み
活動を支援する仕組み	情報収集、提供のシステム	①地区担当保健師から、現状について情報提供している。②高齢者の事態が把握できるよう、地元の老人クラブや高齢者の訪問などを同伴で行う。③ステップアップ研修会、センター会での活動紹介と意見交換により、現状を行政に知らせている。各グループ、行政から必要な助言をえている。
+44 +元	実践事例の蓄 積、分析	 ①各ヘルスボランティアの活動を各センター会や役員会で活動紹介をしている。 ②ヘルスボランティア発表会やヘルスボランティアリーダー交流会、スキルアップ研修会で、各グループの活動を紹介している。 ③各地区の特徴に合わせた活動となっている。 ①1年日本ルスボランティア基礎課席(1年) 毎日1回
地 域 の の の の の の の の の の の の の		 ①1年目へルスボランティア基礎講座(1年)毎月1回、 ②2年目へルスボランティアサポート事業(1年)毎月1回、 自主活動開始に向けて、他の活動の見学を行ったり、地域の 団体について相談し、活動資金を得たり、その場ができることを地域に認めてもらいながら、活動を開始する。 ③3年目へルスボランティア活自主活動の開始 ④毎年、地域組織活動支援チェックシートを用いて活動の評価を行い、より、主体的な活動になるように改善している。

別紙1

地域組織活動支援チェックシート

地区別指	標								
					ноо	ноо		ноо	нос
					年目			年目	
I 組織の自主化							Ⅲ会を主催する人々のエンパワーメント支援		
①会としての体制					/7	/7	①健康づくり実践能力	/3	/3
会の名称が決まって	いる					, .	・自分の健康管理の必要性を理解できる	, -	, -
定例会には半数以上		いる(名簿上の	人数)				・家族の健康管理の必要性を理解できる		
・リーダー的存在の人		(2,021)					自分や家族の健康管理のために心がけていることがある		
・メンバー間の役割分		いる(司会進行	- 会長 会i	+等)			(健康状態把握のために健診を受けたりウォーキングをする等)		
(メンバー自身も役			· ZIR. ZI	147			②知識・技術の習得	/2	/2
会の中での決まり事			認識している	3			・活動を展開していく中で、必要な知識を習得できる	/	/ 2
・活動日(定例会含)				ر			・習得した知識・技術を実践に生かしている		
会場が決まり、皆か				- 隹 = ス)			THE OPENING TO THE TENT OF THE		
- 公場の人なり、自の		の(手助産船の	OC. BARC	-*O)			③社会資源の活用	/2	/2
②仲間との連携					/3	/3	・地域の社会資源を知っている(自治会館、人材等)	/ 2	/2
		1) 7 (/±686@)			/3	/3			
欠席者への伝達方法			\± 68				・社会資源を活用したり、情報提供している		
メンバー間の協力体				と油いる寺)					
・必要な情報を必要な	相手に伝え	. ることか ぐざる					④健康問題に敏感な視点	/2	/2
0+3/6 3/1/6/31-	f-						・自分や家族の健康、地域の人々の健康問題を考えることができる		
③自主的·主体的参加					/13	/13	・自分や家族の健康、地域の人々の健康が維持されるために		
定例会で個々が意見			る、うなづく	(等)			何ができるか		
他者の発言を聞くこ	とができる						考えることができる		
他者の発言を聞き、	受け止める	ことができる							
会としての方向性が	明確となっ	ている					⑤生活者の声の顕在化能力	/1	/1
(メンバー自身もそ	れを認識し	ている)					・地域におきている様々な現象を生活者の視点で問題提起できる		
年間計画の立案がで	きる)						例)歩道に段差があって、車椅子の方が通れない		
• 活動のプログラム立案゙	できる						坂が多くて、虚弱な高齢者が閉じこもりやすい		
活動の実践ができる	5	自主活動(定例	(会以外)						
活動の振り返りがで	きる						Ⅳ保健師の組織化支援		
会場の確保ができる	(定例会、	自主活動の会場)				①ボランティア志向を高める啓発	/2	/2
保健師がいなくても							保健師はメンバーがもつボランティア観を知っている		
困った時など必要時				きる			(ボランティアに対する思い、姿勢)		
活動費の捻出ができ							・ボランティアについての悩みが話題になった時、		
会計報告ができる		2200					そのことについて話し合っている		
2014025 000							COCCIOSVI CIADOS CVIO		
④地域との連携					/4	/4	②組織化する	/9	/9
・活動や存在を住民に	DDできる				/ -	/ 4	・保健師は組織の活動目標や方向性を理解している	, 0	, 5
必要時、自治会や民			油級をとって	71.12			・参加者一人一人の発言を受け止めている		
・自治会や民生委員(・発言を促したり、話しやすいように聞いている		
・自治会や民主委員で・住民や参加者の声を			5118471	Mann (Na					
・住民や参加有の声を	国いている)					・参加者の思いが共有化されるように工夫している		
T 4040 - T 45 /5							・保健師も一緒に楽しみ、会のよい雰囲気づくりをしている		
Ⅱ組織の活性化							・主体的な参加を指示している		
①会としての体制			_		/5	/5	・参加者一人一人の活動を認めている		
会員数及び参加者数							・会の決まり事の作成を指示している		
会員数及び参加者数							・他のヘルボラ組織の会としての体制や活動状況について		
・新しい仲間を増やる		る/増やす気持ち	5がある				情報提供している		
・定例会が行われてい							キーパーソンを把握している		
定例会以外の活動が									ļ
・定例会以外の活動の	場が広がっ	ている/継続され	こている				③組織の活動が地域に普及・定着するよう支援する	/7	/7
				ļ	ļ	ļ	・組織の活動を社会資源のひとつとして住民に紹介している		
②自主的·主体的参加					/4	/4	・組織の活動を民協や老人クラブ等で紹介している		
喜びや楽しさを感じ	ながら活動	している					・組織のPR方法について話し合ったり、助言をしている		
活動を継続したいと	感じている						・地域の社会資源について情報提供している		
・住民や参加者の声を	活動に生か	している					保健師の目から見た地域の実状をボランティアに伝えている		
活動のプロク゚ラム充実の	のため、勉強	強したり話し合い	1をしている				組織の活動を支援する気持ちをもっている		
(学習会、活動推進							組織の活動に対して話し合いの機会をもったり、		
							相談にのっている		
③地域との連携					/2	/2			
自治会や民生委員(老人クラフ	等)の理解を得	られている		1 -		④ボランティアのネットワークを支援する	/2	/2
自治会や民生委員(他のヘルボラ組織との交流の機会について情報提供している		, -
		2, 0,000,000	2,0000				・地区内の他のボランティア団体や社協等との連携について		
							話し合っている		-



ヘルボラ用	*これまでの活動や会の様子を振り				
		НОО	НОО	ноо	HOO
		年目	年目	年目	年目
組織づくり					
①会としての体制		/7	/7	/7	/7
会の名称が決まっている					
定例会には半数以上が参	加している(名簿上の人数)				
・リーダー的存在の人がい	న				
	している(司会進行、会長、会計等)				
	の役割を分かっている)				
			1		
	は、会則を作っており、皆が分かっている				
	、メンバー間で了解されていればよい)				
・活動日(定例会含)が決	まり、皆が分かっている				
会場が決まり、皆が分か	っている(事前連絡等なしで、自然と集まる)				
②仲間との連携		/3	/3	/3	/3
欠席者への伝達方法が確	かしている(連絡網等)				
	とれている(欠席者への連絡、資料を届ける等)				
 必要な情報を必要な相手 					
	ICIDA CVIO	/40	/10	/4.0	(4.0
③自主的・主体的参加		/13	/13	/13	/13
・定例会で個々が意見を出	し合っている(賛同する、うなづく等)				
・他者の発言を聞くことが					
他者の発言を聞き、受け	止めることができる				
会としての目標が明らか					
(メンバーもそれを分か					
年間計画を立てている					
	13				
活動のプログラムを立ててし		+	 		
・活動の実践ができている			 		
活動の振り返りをしてい					
会場の確保をしている(定例会、自主活動の会場)				
保健師がいなくても必要	に応じて、打合せをもっている		I		
困った時など必要時、保	健師に相談をもちかけている				
	る(会費を集める等手段は問わない)				
	る(公員と来のも子及は同りなり)				
・会計報告をしている					
④地域との連携		/4	/4	/4	/4
・活動や存在を住民にPR	している				
必要時、自治会や民生委	員(老人クラブ等)に連絡をとっている				
・自治会や民生委員(老人	(クラブ等) の理解を得られるよう働きかけている				
・住民や参加者の声を聞い	ている				
[組織の充実	77.0				
		/5	/=	/5	/5
①会としての体制		/5	/5	/5	/5
会員数及び参加者数(対					
	加している(前年と比べて)				
新しい仲間を増やそうと	している/増やす気持ちがある				
定例会が行われている					
・定例会以外の活動が行わる	れている				
	「広がっている/継続されている				
②自主的・主体的参加	IZIS S COTOS MENDICATOCOTO	/4	/4	/4	/4
	*>>====================================	/4	/4	/4	/4
喜びや楽しさを感じなか					
活動を継続したいと感じ					
住民や参加者の声を活動					
活動のプログラム充実のため	め、勉強したり話し合いをしている		∟ Т		
(学習会等の場も含)					
③地域との連携		/2	/2	/2	/2
	クラブ笑)の理解を得られている	/ 2	/ -	/ 4	/ 4
	クラブ等)の理解を得られている				
(活動を分かってもらえ			 		
	クラブ等)の協力を得られている				
(活動にあたって、会場	提供や人集め等何かしらの協力を得られている)				
ヘルボラ等の自己解決能力					
①健康づくり実践能力		/3	/3	/3	/3
・自分の健康管理の必要性	を分かっている	, ,	 		, 0
・ 家族の健康管理の必要性					
			 		
	ために心がけていることがある				
	めに健診を受ける、ウォーキングをする等)		ļ		
②知識・技術の習得		/2	/2	/2	/2
・活動を展開していく中で	、必要な知識を習得している				
・習得した知識・技術を実					
③社会資源の活用		/2	/2	/2	/2
	1.)ス(活動に必要な今担かしお笑)	/ 4	/ 4	/ 4	/ 2
	いる(活動に必要な会場や人材等)		 		
	必要な情報を必要な相手に提供している				
4健康問題に敏感な視点		/2	/2	/2	/2
自分や家族の健康、地域	の人々の健康問題を考えている		∟ Т		
	の人々の健康が維持されるために何ができるか				
自分や家族の健康、地域					
・自分や家族の健康、地域 考えている		,,	/-	/-	/-
・自分や家族の健康、地域 考えている ⑤生活者の声の顕在化能力		/1	/1	/1	/1
・自分や家族の健康、地域 考えている ⑤生活者の声の顕在化能力 ・地域におきている様々な	現象を生活者の視点で問題提起できる	/1	/1	/1	/1
・自分や家族の健康、地域 考えている ⑤生活者の声の顕在化能力	現象を生活者の視点で問題提起できる	/1	/1	/1	/1

別紙2

地区診断シート 1~9

地区診断シート1

) 復	赴康指標	その年の3月末の統計

I. 人口	コ動態・衛生統計	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
1. 世神	持数										
	2. 総人口										
	3. 男										
	4. 女										
	5. 14 歲以下										
	6.65 歳以上(率)	(%)	(%)	(%)	(%)	((%)
	7.75 歲以上(率)	(%)	(%)	(%)	(%)		(%)
出生	8. 出生数(率)										
	9. 未熟児数(率)										
死亡	10. 死亡数 (率)										
	人暮らし高齢者 民生委員調べ)										
12. 基	本健診受診者数				1997						114
1.6 健診	13. 校区別対象数						- 144				
	14. 受診者数 (率)						GENERAL PROPERTY.				
	15. 未受診者数		Des Taranto				•				11 11

Π.	社会資源	7				
1.	自治会	2. 老人ク	ラブ	3. 民生委員	4	. 児童委員
5.	公民館 公民館 TE	L	6. 在宅介護包括支援		(地区) TE	L - L -
7.	Œ	総合病院 の外科・整形外科 ②皮膚科 沈精神科・神経科		③内 ⑦耳 ※・接骨院 ⑪ り びす・ション ・	鼻 科	④小児科 ⑧産婦人科
8.	@)痴呆对応型共同生	活介護 ⑤居宅	老人保健施設 介護支援事業者 他 訪問入浴 , 訪看	⑥訪問介護	
9.	高齢者福祉施設等(①養護老人ホーム	②ケア/	ハウス ③老人	人福祉センター	④その他
10.	障害者(児)福祉が	函数等 ①更生接護 ⑤その他	施設②福	祉施設 ③知的	障害者接護施	設 ④授産所
11.	生活保護施設等 ①)救護施設	②宿泊提供	施設	③その他	
12.	児童福祉サービス等	①育児サークル	②子育て広場	3学童保育	④その他	
13.	精神障害施設等(1	生活訓練施設	②ケーループ ホーム	③授産施設	④その他	
14.	児童福祉施設等 (立 認証 ②幼 その他	惟園 公立 私立	③子育て支払	爰センター
15.	学校等 ①小学校	②中学校 ③高等	等学校 ④大学	⑤ 専門学校	⑥その他	
16.	民間サービス ①心理	相談	2	0	3)	
17.	その他 ①	2	3			
備者	ž					

地区診断シート2-① 成人分() (H 月記入 記入者:) ② 関係機関及び自主活動組織

組織名 (開催場所) 組織名称記入	活動内容 具体的な内容と 活動場所	活動頻度 開催の頻 度	保健師かかわり かかわりの頻度・内 容を記入	参加条件 ○: 誰でもOK ×:条件あり	代表者名等 加入希望ある場合 の連絡先	 The state of the s	他機関(包括等)への 情報提供の可否 (O:OK ×:条件あり)	備考
				V				
						100		

地区診断シート3

◎ 地区で実施している事業

実施事業名	目的	実施回数	参加者数	参加者意見
	<i>F</i>			

地区診断シート4

◎ 生活環境

0 32149896			
交通アクセス			
地区環境状況	******		
生活状況			
住民の声	ω, .		
その他			

地区シート5

◎ 地区活動の展開における地区側の条件づくりの状況

やっていること	やりたいこと、やれそうなこと

地区診断シート6

- ◎ 家庭訪問援助対象者の訪問把握数
- 1. 年度初に実人員・延件数により訪問必要量を出す。年度末には訪問決定量を出す。

-		平成	年度
		訪問必要量	訪問決定量
対1	象分類	実人員	実人員
1) 4	要指導者		
2	閉じこもり予防		
3	家族介護者		
4) 9	夏たきり者		
5 }			
6	成人 (39歲以下)		
7	心身障害者(39歲以下)		
8,	ハイリスク妊産婦		
9 ;	未熟児		
10)	長期療養児		
10 :	乳児		
/1.	②1.6事後		
幼	③1.6 未受診		
児	⑭その他(1.6 健診以外から把握)		
(B)	心身障害児		
(6)	思春期学童		
10	母性父性		
ž	精神		
j	結核		
	計		
(8)	世帯数		
19	 查待児童数(再揭)		
	多胎 (再掲)		

2. 次年度に向けて

	A ALE .	_
1111	区診断シー	7

	- 1-7		
	年度から5か年間の地区活動計画		
長期目標			
地区診断シー	-18		
◎ 平成	年度地区活動計画		
平成 年度	地区活動計画		
			1
			1
		- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
			1
地区診断シート	. 9		
◎ 平成 年	度地区活動評価		
平成 年度地	也区活動評価		
The second secon			
	224		
グループ長コッ	メント		

資料3 ソーシャルキャピタルの醸成の要因 (25年度の調査から)

1. 活動の立ち上げには

地域診断による健康課題の明確化と地域との情報共有のプロセスが重要 住民自身が地域実態を知り、気づきを促すことが自分事として認識につながる 地域を知り人と繋がることが基本

2. 健康課題の把握と共有には

- ①把握した健康データの収集と分析
- ②住民の声を聴く
- ③把握した情報の資料化、わかりやすい情報提供

3. 活動の継続には

- ①地域人材の把握
 - 住民一人ひとりが特技や地域貢献のノウハウを持つ人材としてキャッチ
 - ・既存の住民活動を知る
- ②地域人材の育成
 - 誰にでもできるプログラムから始める
 - 他の取り組みを体験的に学習する機会を提供
 - 会の運営、マネジメントのノウハウの提供
- ③モチベーションの維持向上
 - ・ 成果の認証
- ④活動の楽しさ、達成感の実感
 - 参加者の気持ちやニーズを聴き、活動を進める
 - 自己表現し、他者から賞賛を受ける自己肯定感の実感
 - 人と人とのつながりの温かさ
- ⑤活動の伝承、定着には
 - 活動のノウハウ、役割の人から人への継承伝承
 - ・広報等による住民への活動の周知と住民の理解、興味を引き起こす
 - 区計画等に組み込むことで、行政とのパイプを強化、財源支援

4. 活動の評価・検証には

- ①地域診断による課題解決のゴールとなる指標の設定
- ②ソーシャルキャピタルの評価指標の活用
- ③活動の終結や方向転換

資料4. ソーシャルキャピタル(SC)の醸成と保健師の人材育成(検討資料)

SC 醸成のスキルの向上

- 1. 地域と協働した 住民主体の活動のノウハウ
- ○活動支援マニュアルの整備
- 〇研修プログラムの設定
 - ・保健師のスキルアップ
 - 住民のスキルアップ

- 2. 活動の地域計画への反映、 政策提案等のスキル
 - ○組織としての合意形成の手順
 - ○政策提案と財源確保
 - ○首長による活動の認証、賞賛



地域活動の強化(活動の土台)

- 3. 地域との健康課題の共有と成果の還元
 - ○健康課題、目的、ゴール、成果の共有
 - データ、地区診断結果、住民の声の見える化(資料化)
 - 地域会議、広報、チラシ等で地域情報の提供や成果の還元

や成果の還元







- 2. 地域の健康課題の把握(地域診断)
 - ○地域データ収集、分析、評価
 - 〇住民の声:地域会議・個別支援等から聴取

○活動の根拠の明確化、

○自分事としての認識

〇モチベーションの向上

○活動の広がり、定着

○目標、ゴールの設定







○地域活動実践、継続

の鍵

- 1. 地域人材の把握
 - ○地域会議、地域巡回、個別訪問等による地域人材の把握
 - 人材リストや活動内容等の情報集約と保健師間の共有、伝承
 - ○地域人材とつながる、人材同士をつなげる(顔の見える関係)